特集・旅行台湾年

旅行台湾年ラストスパート

テーマ性の高い観光をPR、誘致拡大へ

特別奨励プログラムを実施
旅行会社の団体送客を支援

08～09年の２カ年にわたって展開してきたキャンペーン「旅行台湾年」が終盤を迎えている。日本を最重要市場に位置づける台湾観光局は今月から、日本の旅行会社の大型団体の送客を支援する特別奨励プログラムをスタートさせ、日本人旅行者のさらなる誘致拡大を目指していく。また、来年からは、「旅行台湾・感動１００」と題した新たなキャンペーンの展開を準備している。テーマ性の高い観光資源、観光プログラムを企画、ＰＲし、外国人旅行者の誘致を促進する方針だ。

来年は「感動100」キャンペーン展開

台湾への日本人旅行者数は、08年が前年比６・８％減の１０９万人。09年は１～９月の累計で前年同期比８・０％減の74万３５８７人。世界的な景気低迷や新型インフルエンザの影響で、前年を下回るペースで推移している。特に１、５、６月は減少幅が２ケタに達した。しかし、８月は３・４％までに下げ幅は縮小し、９月は10・７％増とプラスに転じた。今後の客足の回復が期待されている。

観光をとりまく厳しい情勢などを踏まえ、台湾観光局は、09年旅行台湾年の第４季（10～12月）と来年の旅行者誘致に向けて、特別予算を投下して、プログラムの実施を決めた。インセンティブツアー（企業などの報奨旅行）と修学旅行を送客する日本の旅行会社に助成金を交付する新たな施策だ。

この特別プログラムは、日本の旅行会社が25～１００人の団体旅行を送客すると、参加者１人に付き２千円を「集客補助金」として助成するという内容。１０１人以上の場合は旅行内容に応じて別の支援策を講じる予定だ。来年12月31日までに出発する旅行が対象で、来年１月末までに事前に申請することが条件。実施予算は上限１千万元（約３千万円）となっており、上限に達し次第申請を終了する。

これまで日本の旅行会社を対象に実施してきたチャーター便誘致奨励支援プログラムなどは、来年も継続する予定だ。また、台湾への旅行者を対象としてきた特産品やクーポン券などのシーズンプレゼント、台湾入国１００万人目ごとの大型プレゼント企画も継続する。

終了する旅行台湾年を引き継いで、来年から新たに展開するキャンペーンが「２０１０旅行台湾・感動１００」だ。グルメや温泉、リゾートウエディング、健康、サイリング、鉄道など、台湾らしい魅力があふれるテーマ性の強い観光素材を磨き、日本の観光市場にＰＲしていく。

さらに台湾は２０１１年に誕生１００年を迎えることから、大型の旅行者誘致キャンペーンを計画している。来年の「旅行台湾・感動１００」をはずみにして、節目の年の飛躍につなげたい考えだ。

第４季プレゼント 温泉利用券を配布

台湾観光局は、旅行台湾年のシーズンプレゼントで、09年第４季（10～12月）分として、台湾各地の温泉施設で利用できるクーポン券の配布を開始した。

クーポン券が利用できるのは、台北の北投温泉、宜蘭県の礁溪温泉、台東県の知本温泉など16温泉地の59施設。利用期限は来年３月末まで。

クーポン券は台湾旅行の前に申請が必要。旅行会社も申請できる。入手は、台湾観光協会東京事務所、大阪事務所まで。

台北旅行博 30日に開幕
20万人の来場見込む

国際旅行見本市「２００９台北国際旅行博（ＩＴＦ）」が10月30日、台北市の世界貿易センター展示館で開幕。世界58の国や地域から観光関係者が出展し、１２００ブースが並ぶ。毎年約20万人が来場する。会期は４日間で11月２日まで。

日本からは地方自治体や旅行会社、宿泊・観光施設など、台北国際旅行博でも最大級の74ブースを展開している。

旅行博の開催に合わせ、地域・事業者間の商談会や各地の旅行説明会も行われる。

一般の来場者向けには、ホテルのスペシャルプランや特別な旅行商品などが販売されることから、毎年会場は多くの旅行ファンでにぎわいをみせる。

《旅行会社向けの支援施策》

特別支援プログラム

特別奨励プログラム	日本の旅行会社を補助対象に、一定基準を満たす企業や団体などが実施する25～100人の台湾への報奨旅行、修学旅行の企画・手配に旅行参加者1人当たり2000円を助成する。101人以上は別途支援策を講じる。来年12月31日出発までの旅行が対象で、事前申請が必要。受付は来年1月31日まで。予算に制限があり、先着順。

2010年も継続的に実施するプログラム

チャーター便誘致奨励プログラム	定期チャーター便を除く不定期路線で、台湾人以外の旅客を運ぶチャーター便(1便当たりの旅客100人以上)の運航を旅行会社が主催した場合、100万円の助成金を交付するほか、基準を満たしたツアー募集広告費に45万円を上限として協賛する。
海外旅客クルーズ船寄港歓迎プログラム	クルーズ客船の旅客に対し、歓迎アトラクションなどさまざまなウェルカムイベントを提供する。
パンフレットサポート募集広告協賛	日本の旅行会社が台湾観光局の提案するコンセプトに基づいた旅行商品の造成や募集広告の掲載を行う際、一定の基準のもとに協賛を実施する。
インセンティブツアー誘致プログラム	企業や団体、宗教団体、文化団体、農業団体などのインセンティブツアーに歓迎アトラクションやプレゼントなどを提供する。

魅力あふれる台湾 商品造成に期待
台湾観光局 頼瑟珍局長

日本は旅行商品の品質や送客人数の上で、台湾が最も重視する観光マーケットとして位置づけています。日本の出国数の減少に伴い、台湾への旅行者も昨年より厳しい状況でありますが、回復の兆しも見えてきました。これは、日本の旅行業界をはじめとする関係者の皆さまが、台湾旅行商品の開発、販売に力を注ぎ、旅行台湾年における各種プロモーション活動を支援してくれたおかげであり、台湾観光界を代表して心より謝辞を申し上げます。

台湾観光局では、これまで実施してきた旅行台湾年キャンペーンプログラムに加えて、日本からのインセンティブツアー、修学旅行などの団体の積極的な誘致に向け、旅行会社の支援を目的として特別助成策を準備しました。台湾への送客に協力をお願いします。

今年４月に台湾の行政院では、観光産業を６大新産業の１つに加え、今後３年以内に300億元（約900億円）の予算を観光プロジェクトに投入することを発表しました。こらからも台湾観光の魅力を世界中にＰＲしていきます。来年はランタンフェスティバル、台北花博、日月潭の遠泳イベント、ウォーキングやマラソン大会、サイクリングイベント、温泉イベントをはじめ多様なニーズに呼応したイベントの開催を準備しています。イベント性の高い旅行を楽しんでもらえるような旅行商品の造成を期待しています。皆さまのお力添えをいただきながら、台湾を100％楽しんで感動する観光地として創造していきたいと考えています。

（先月17日、東京都内で開催の観光セミナーで）

台北国際花の博覧会
来年11月から半年間

グイさん（写真中央右）**と南さん**（同左）

花や園芸の国際イベント「台北国際花の博覧会（台北花博）」が来年11月６日～２０１１年４月25日の６カ月間、台北市で開かれる。花をテーマにした展示やイベントでもてなし、国内外の観光客約６００万人の来場を見込む。

国際花の博覧会は、１９４８年に設立された国際園芸家協会（本部オランダ）が認定する大型イベントで欧州各地のほか、日本でも04年に「浜名湖花博」（静岡県）が開催されている。

会場は、中山サッカース**来場600万人見込む**タジアム、圓山公園、市立美術館、大佳河濱公園などで延べ面積は91・８㌶に及ぶ。各会場では、花の美しさを競う展示、エコロジーや先進技術を駆使した園芸公園周辺で開催される。21回目を迎える。ランタンフェスティバルは、旧暦１月15日の「元宵節」に提灯を灯す風習を基にした大型観光イベント。今年の元宵節は２月28日にあたっている。

観光局主催のランタンフェスティバルは、90年以降、地域の活性化を目的に台湾各地で巡回開催。今年２月の宜蘭県での開催では、14日間で外国人旅行者を含む３００万人以上を集客した。

毎年、干支にちなんだ巨大なメーンランタンを製作して設置する。地域住民やスポンサー企業が出品するさまざまな形をした大小の花燈（ランタン）が並び、幻想的な光景を作り出す。

ステージでは伝統芸能や音楽なども披露される。初日の点灯式のステージなどには、日本の団体・グループも参加し、各地の芸能やパフォーマンスを披露。日台の民間交流の場となっている。

元宵節には、台湾観光局主催のランタンフェスティバルのほか、台北市や高雄市などが主催するランタンフェスティバルも開かれる。このほかにも地域それぞれの元宵節行事が行われる。

台湾ランタンフェスティバル
2月28日から嘉義で

台湾観光局などが主催する来年の「台湾ランタンフェスティバル」は、２月28日～３月７日の８日間、嘉義市の嘉義運動公園で開催される。

今年２月のランタンフェスティバル（宜蘭）

平渓の天燈祭りも

元宵節の関連行事では、台北県・平渓郷の「天燈上げ」のイベントが外国人観光客に人気となっている。天燈上げは、全長１㍍ほどの紙風船に願いごとを書き、内側に火を灯し、気球の原理で空高く飛ばす風習。山間の夜空にたくさんの天燈が舞い上がる姿は不思議な光景だ。平渓では元宵節に向けて各種イベントが行われる。

平渓の天燈上げ

日本統治時代の建築物紹介

「懐旧の旅」をＰＲ 日本でムック本発行

台湾観光局では、日本に向けた旅行テーマの１つとして、日本統治時代の建築物などを巡る「懐旧の旅」を提案している。熟年層や歴史に興味のある層がターゲット。近く懐旧の旅の魅力を紹介したムック本も日本で発行される。

台湾総統府

懐旧の旅で提案するスポットは、日本統治時代のエピソードにあふれる。「台湾総督府」として建てられた総統府（台北市）。実現はしなかったが、皇太子時代の昭和天皇の行幸のために建てられた金瓜石の「太子賓館」（台北県）。日本人技師、八田與一の設計、指揮で完成した烏山頭ダム（台南県）など。

懐旧の旅をテーマにしたムック本「台湾ノスタルジア懐かしい日本に出会う旅」が日本で発売される。発売日未定。台湾観光局と台湾メディアのスカイアートエンタテイメントの共同企画で奥深い魅力を紹介する内容。また、出版と連動したテレビ番組「台湾ノスタルジア」が今月29日、日本のＢＳ―ＴＢＳで放送された。

鉄道旅行の魅力発信
ＤＶＤで話題性もアップ

台湾観光の新たなテーマとして鉄道旅行もＰＲしていく。高速鉄道や特急列車はもとより、ローカル線、山岳鉄道などさまざまな魅力を持つのが台湾の鉄道の特徴。日本でも注目を集め、台湾の鉄道旅行を紹介するＤＶＤも発売されている。

話題のＤＶＤ

07年に開業した台湾高速鉄道（新幹線）、台北から日帰りで楽しむことができる人気の平渓線（台北県）、標高差２千㍍以上の山岳地帯を走る阿里山鉄道など魅力的な路線が台湾には数多くある。日本統治時代に導入された蒸気機関車の運行イベントなども開催されている。

鉄道旅行の魅力を紹介しているＤＶＤが「木村裕子の乗り鉄学台湾いっちゃいました」（発売元・マジカル、販売元・グラッソ）。鉄道ファンのアイドル、木村さんが台湾を旅行し、鉄道や車窓から広がる風景をリポートしている。第１巻は発売中。第２巻は11月３日に発売。いずれも本編90分（別に特典映像付き）で価格は３９９０円。

台湾の鉄道旅行はすでに日本の鉄道ファンに人気。一般旅行者にも観光バスなどとはひと味違った台湾の表情がみられる旅としてＰＲしていく。

2010年台湾イベント情報

２月28日　台湾元宵節　台湾各地でランタン祭りが開催される。
２月28日～３月８日
台湾観光局主催　2010台湾ランタンフェスティバル
（嘉義市運動公園周辺）
〈その他、各地の２月28日元宵節前後の祭り〉
平渓天燈祭り（平渓、十分など）、台南塩水爆竹祭り、台東元宵民俗カーニバル、台北ランタン祭り、南投ランタン祭り、台中ランタン祭り、2010台湾高雄ランタン祭り（２月20日～３月７日）、苗栗火旁龍ランタン祭り

２～３月　桜まつり（陽明山、烏来、日月潭など）
４～５月　アブラキリ花まつり（台北、桃園、新竹、苗栗など）
６月16日　ドラゴンボートフェスティバル　（台湾各地）
６月24日　霞海城隍廟＝城隍神様の誕生日（台湾各地城の隍廟）
７～８月　アミ族豊年祭り　（花蓮県、台東県）
８月24日　中元節（台湾全土）、基隆で中元の祭り
11月６日　台北国際花博が開幕（～2011年４月25日まで）
※情報は台湾観光局、台湾観光協会のウェブサイトで随時更新

台湾2010年祝日一覧

１月１日	開国記念日	国定の休日は１日のみ
２月14日	春節	旧正月元旦。３大節句の中で最も華やか。正月休暇として大型連休になる（来年は２月13～21日の最大９連休）
２月28日	和平紀念日	
４月５日	清明節	祖先の墓掃除などを行う
６月16日	端午節	各地でドラゴンボートレースが開かれる。３大節句の１つで連休となる
９月22日	中秋節	満月にちなみ一家団らん。３大節句
10月10日	国慶節	台湾を挙げて慶祝式典、パレードがある

2010年上半期見本市情報

３月17～20日　台北国際サイクル見本市
４月15～18日　台北国際オートバイ見本市
４月23～26日　台北国際ギフト及び文具見本市
４月29日～５月２日　台北国際スポーツ用品展
５月８～11日　台北国際 CNC 工作機械及び製造技術見本市
台湾国際ロボット見本市
６月１～５日　台北国際コンピューター見本市
６月23～26日　台北国際食品見本市
※台北国際見本市の詳しい情報は、ウェブサイト(http : //www.taipeitradeshows.com.tw/)まで。

「旅行台湾年」プレゼントキャンペーン実施中

台湾観光局
http://jp.taiwan.net.tw

台湾観光協会東京事務所
電話03-3501-3591　FAX03-3501-3586
〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目5-8　川手ビル３階

台湾観光協会大阪事務所
電話06-6316-7491　FAX06-6316-7398
〒530-0047　大阪府大阪市北区西天満4-14-3-6F